

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

年 月 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 生命科学研究科

職 名・学 年 研究員

氏 名 司 悠真

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	The Maggot Meeting 2025		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☐ 口 頭 ・ ☒ ポスター ・ ☐ その他(		
発 表 題 目	The determinants of pupation site selection: Turning and Head/Tail Raising as dry surface responses		
開 催 場 所	ドイツ ライプツィヒ大学		
渡 航 期 間	2025 年 9 月 13 日 ～ 2025 年 9 月 20 日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 ☐ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	350,000 円	
	使用した助成金額	350,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	201,000
		宿泊費	80,500
		滞在費	68,500
		学会参加費	0
	その他		
以上に助成金を充当			
当財団の助成について	貴財団のご支援により、遠方国で開催される国際会議に参加することが可能となりました。心より御礼申し上げます。グローバル化が進む昨今において、国際会議の重要性を強く感じました。今後も助成が継続されることを願います。今回、理系共通事務から助成金の経理・管理は事務に委託する様に指示をされました。助成金は個人口座へ振り込まれることになっておりましたが、大学の口座への振込も選択肢として加えていただけますと、金銭の流れがよりスムーズになるかと存じます。ご検討いただけますと幸いです。		

成果の概要/司悠真

The Maggot Meeting

2025 年 9 月 15 日から 9 月 18 日まで The Maggot Meeting に参加した。本大会は、ショウジョウバエ幼虫の行動を、神経学・遺伝学的アプローチで研究する科学者のための国際会議である。通常は 2 年ごとの開催であるが、新型コロナウイルスのパンデミックにより、オンライン開催であった前回大会から 5 年、対面開催としては実に 8 年ぶりの開催となった。2025 年大会は、ドイツのライプツィヒ大学で開催され、37 件の口頭発表と 27 件のポスター発表が実施された。

成果 1: マックスプランク研究所訪問

The Maggot Meeting の参加に先立ち、Max Planck Institute for Chemical Ecology (ドイツ/Jena) を訪問した。訪問先の研究室は、私の研究と関係の深い幼虫行動や神経を異なる観点から研究しており、直接議論をしていただいて、プロジェクトの方向性に影響を与える核心的な助言や知見を得ることができた。さらに、ドイツでは近年、日本を含む東アジアが原産のショウジョウバエ種が侵入し、害虫として深刻な被害が出ていることなど、自身の研究分野とも関係する貴重な話を伺うことができ、日本のチームとして世界をリードできる新たな研究の可能性を感じた。また、Max Plank 研究所内の研究設備を見学させていただき、世界有数の研究期間の環境を肌で感じることもできた。

成果 2: The Maggot Meeting での発表および議論

報告者は本大会で、ショウジョウバエ幼虫が蛹化場所を選択するメカニズムについて、「The determinants of pupation site selection: Turning and Head/Tail Raising as dry surface responses」というタイトルで報告した。特に蛹化に関連する行動を解析している研究者とは充実した意見交換をすることができ、現在投稿準備中の論文の質を高めることができたと感じている。また、フランスの研究グループが我々の解析しているニューロンと同じニューロンに興味を持っていることがわかった。我々が樹立したショウジョウバエ系統を共有することで研究が加速することが期待されたため、フランスの研究グループと共同研究を開始する運びとなった。これも、対面で開催された国際会議に参加できたからこそ成し得たことだと実感している。

謝辞

貴財団のご支援により、人生で初めてとなる国外開催の会議に参加することができました。これまでの研究成果を国内外に発信できただけでなく、新しい国際共同研究を開始できるという、貴重な経験をすることができました。これも本助成金なくして成し得ないことだと思っております。末尾になりますが、ご支援を賜りました助成金関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。